

異文化コミュニケーション能力育成の観点による 小学校英語科検定教科書分析

谷浦 健司[†]

Analysis of Elementary School English Textbooks from the perspective of developing cross-cultural communication skills

Kenji Taniura

1. はじめに

2017年に新しい小学校学習指導要領が告示され、2020年度から小学校5・6年で全く新しい検定教科書を使用した外国語（英語）教育が始まった。7つの教科書会社が教育基本法や学習指導要領に照らし合わせながら、5・6年生向けの英語教科書を作成した。その個々の教科書は、異文化コミュニケーション能力育成に、どのくらい有効なのだろうか、また、足りない点はないのだろうか。それについて論証が必要になってきている。

この論文では、英語の各教科書で異文化コミュニケーション能力育成がいかにめざされているのかを明らかにするために、東京書籍、開隆堂、学校図書、三省堂、教育出版、光村図書、啓林館の7社が発行する新しい小学校5・6年生向けの検定教科書で、異文化コミュニケーション能力育成に必要な要素や異文化コミュニケーションの阻害要因を取り除く要素がいかに扱われているかを調べていく。

2. 異文化コミュニケーション能力の定義

2.1 異文化コミュニケーション能力とは何か

「コミュニケーション」という言葉については多くの定義があるが、石井（2013）が、「人が、物理的および社会的文化的環境・コンテキストの影響を受けながら、他者と言語および非言語メッセージを授受・交換することによって、認知的および情意的な意味づけをする動的な活動過程」（p.20）としているのが網羅的である。また、「異文化コミュニケーション」についても、石井（2013）が、「異なる文化的背景をもつ人々の間で行われるコミュニケーション」（p.29）と定義・説明している。「コミュニケーション能力」については、八島（2012）が「狭義の言語能力だけではなく、非言語によるコミュニケーション、コミュニケーション・スタイルや文化文法の違いに対応すること

や、人間関係への開放的な態度などを含む」（p.217）能力と定義している。よって本稿では、「異文化コミュニケーション能力」は、これらを組み合わせた「異なる文化的背景をもつ人々の間で行われる、言語及び非言語によるコミュニケーションや文化文法の違いに対応することや、人間関係への開放的な態度を含む能力」と考えることとする。

2.2 異文化コミュニケーション能力の構成要素

石黒（2013）によると、「異文化コミュニケーション能力＝認知＋情動＋行動」のように、異文化コミュニケーション能力を能力特性の組み合わせとして示したものを構成モデルという。さらに石黒（2013）によると、山岸らは1992年に、①自文化（自己）への理解：多面的に自文化及び自己を理解できる能力、②非自民族中心主義：自文化の基準で相手文化を判断せず、自文化が優れているとする考えを回避する、③外国文化への興味：先入観なく外国文化を受け入れようとする態度、④知的能力：現実的な適応能力、⑤判断力：正しく認識し評価する能力、⑥感受性：異文化を正しく感じ取る働き、⑦寛容性：排斥することなく、おおらかに受け入れる性質、⑧柔軟性：異文化を柔軟に受け入れる性質、⑨オープンネス：新しい経験や異なった考え方に対するオープンな態度、⑩コミュニケーション：意思疎通を行い、互いを理解し合う能力、⑪マネジメント：組織の管理や運営をする能力、⑫対人関係：やりとりを通じて対人関係を築く能力、という12の項目を提示している。

本稿ではこれらの要素を参考にして、独自の6要素を抽出した。

3. 研究課題・研究分析対象・研究方法

本稿においては2020年度からあらたに使用されている小学校英語教科書が、異文化コミュニケーション能力育成に関して、どのような記述があるのかについて考察する。

[†]2021年度修了（人文学プログラム）

3.1 研究課題

本論文は、まず、異文化コミュニケーション能力育成のために必要な条件を考え、育成要因を育てる要素と阻害要因を取り除く要素の2種類に大きく分けて、その要素がどのように含まれているか、いないかについて小学校英語検定教科書を分析する。

3.2 研究方法

まず、異文化コミュニケーション能力育成のために必要な条件を、学習指導要領の目標も参照しながら考察し、その能力を育成する要素及び阻害要因を取り除く要素が小学校教科書にいかに含まれているかを分析した。

3.2.1 異文化コミュニケーション能力育成のための重要な構成要素

今回の改訂学習指導要領では、各教科の指導改善等が図られるように、評価の観点について、以前の3観点「知識」「技能」「態度」が進化し、新しい3観点「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に沿った整理がされた。この整理に呼応して異文化コミュニケーション能力向上のための3条件は次のようになる。

1. 自文化と異文化の特性に関する知識・理解と実際的な技能（「知識・技能」）
2. 実際的な場面・状況で考え、判断し、表現・理解する力（「思考・判断・表現」）
3. 異文化交流に対する積極的態度（「主体的に学習に取り組む態度」）

この3条件を踏まえて、2.2節の山岸らの提示を参考にし、筆者オリジナルの試みとして、小学生の異文化コミュニケーション能力育成のための重要な構成要素を下記の通り定義する。

- ①自文化への理解と発信：自国や自文化をよく理解し、他人に伝えられる。
- ②外国文化への興味・紹介：外国の文化への興味を持ち、理解し表現できる。
- ③感受性及び開放性：様々な文化の印象や違いを感じ取り新情報に対して、開放的な態度を示す。
- ④寛容性及び柔軟性：一見問題だと思われる文化を排斥せずに受け入れ、発想の転換ができる。
- ⑤積極的行動態度：異文化交流に対して積極的に行動し、対人関係を築く。
- ⑥英語（外国語）での発信：英語（外国語）を用いて情報を発信し交流する。

この6つの異文化コミュニケーション能力育成のための記述の有無から、すべての教科書を分析した。

3.2.2 異文化コミュニケーション阻害要因を取り除くための重要な構成要素

後藤（1997）によると、バーナは、異文化コミュニケーションの阻害要因として、①「皆同じ」という前提、②

言語の違い、③非言語メッセージの解釈の違い、④思い込みやステレオタイプ、⑤評価的な態度、⑥極度の不安、という6つの要素を指摘した。改訂学習指導要領やバーナや後藤（1995）の指摘を参考にして、異文化コミュニケーションの阻害要因を考えてみたい。

①「皆同じ」という前提：異文化の相手が自分と類似点が多いだろうという前提でコミュニケーションに臨むと、違いが見えなくなり、思慮に欠ける態度を示してしまう。

②言語の違い：相手に対して何を言い、どのように言うか、どう答えるかは文化・言語によって異なる。言語の違いや使い方の違いに気がつかない。

③非言語の解釈の違い：同じジェスチャーでも文化により意味が異なり誤解されることがある。目に見えるものだけでなく、時間・空間・なわばり意識の違いなどもある。

④思い込みやステレオタイプ：対象のグループや人を単純化し、誇張して一般化してしまい、誤解を招く。

⑤ 評価的な態度：異文化に対して、物事がうまく進まないと否定的な評価を下してしまう。

⑥ 極度の不安：初めての異文化接触の場で、心配や不安になる要素があり、断定的に否定的な評価を下してしまう。

この6つの異文化コミュニケーション阻害要因を取り除くための記述の有無から、すべての教科書を分析した。

3.3 研究分析対象

2020年4月より新しい検定教科書が小学校英語で使われるようになった。表1は教科書番号順に並べたものである。各社とも5年生用と6年生用があり、東京書籍のみ教科書の一部として、別冊の「絵辞書」を作成している。全体に大判教科書で、イラストや写真が多く、QRコードで映像が見られるようになっている。会話形式のものが多くてほとんどが1語から長くても7語程度の短文である。占有率は、東京書籍が60%近くを占め、光村図書が15%と続いている。東京書籍は、これまで文部科学省からパイロット版教科書を発行してきた実績が評価されたと考えられる。

表1 小学校英語教科書一覧

番号	学年	教科書名	出版社	判型	占有率/順位
501	5	NEW HORIZON Elementary English Course 5	東京書籍	A4	57.7% / ① 2.587.488冊
502	5・6	NEW HORIZON Elementary English Course Picture Dictionary	東京書籍	AB	
601	6	NEW HORIZON Elementary English Course 6	東京書籍	A4	

異文化コミュニケーション能力育成の観点による
小学校英語科検定教科書分析

503	5	Junior <u>Sunshine</u> 5	開隆堂	AB	9.2% / ③ 206.721冊
603	6	Junior <u>Sunshine</u> 6	開隆堂	AB	
504	5	JUNIOR TOTAL ENGLISH 1	学校図書	A4	1.9% / ⑦ 42.426冊
604	6	JUNIOR TOTAL ENGLISH 2	学校図書	A4	
505	5	<u>Crown Jr.</u> 5	三省堂	AB	4.8% / ⑤ 106.803冊
605	6	<u>Crown Jr.</u> 6	三省堂	AB	
506	5	One World <u>Smiles</u> 5	教育出版	AB	8.1% / ④ 182.468冊
606	6	One World <u>Smiles</u> 6	教育出版	AB	
507	5	<u>Here We Go!</u> 5	光村図書	AB	15.0% / ② 337.017冊
607	6	<u>Here We Go!</u> 6	光村図書	AB	
508	5	<u>Blue Sky</u> Elementary 5	啓林館	AB	3.3% / ⑥ 74.770冊
608	6	<u>Blue Sky</u> Elementary 6	啓林館	AB	

文部科学省（2019）p.21及び渡辺（2019）pp.10-12より筆者作成。以降は下線を付した語のみで各教科書を略称する。

4. 異文化コミュニケーション能力育成の要素による教科書分析

3.2.1で定義した異文化コミュニケーション能力育成の重要な構成要素の有無やその内容から、すべての教科書を分析した。教科書によって、第1課をLesson1としているものとUnit1としているものがあるが、本論文では、便宜上Lesson1で統一する。

表2 異文化コミュニケーション能力育成の要素からみた
小学校英語教科書の分析

	自文化理解と発信	外国文化への興味	感受性開放性	寛容性柔軟性	積極的行動態度	英語での発信
HORIZON	5・L7	6・L7	5・L1	5・L6	6・L1	5・L4
Sunshine	6・L4	6・L7	5・L2		6・L7	6・Project2
TOTAL	5・L7	5・L3	6・L2	5・L7		6・L5
Crown	6・L2	5・L5	6・付録	6・付録	5・表紙裏	5・口絵 6・口絵

Smiles	5・L6	5・L3	5・L3		5・学習目標	6・Read & Act 2
Here We	6・L2	5・L6	5・口絵		5・表紙裏	5・言葉 6・Warm
Blue Sky	6・L2	5・L6	6・L8	5・L1		5・story 6・story

4.1 自文化への理解と発信

HORIZON（5年L7）：世界に広がる日本語・文化を具体的に紹介している。

Sunshine（6年L4）：日本のことを考え、紹介文を書き、発表させている。

TOTAL（5年L7）：日本の行事の説明を聞かせて、名前・日付を書かせている。

Crown（6年L2）：日本の行事や学校行事を紹介させ、書かせている。

Smiles（5年L6）：日本の都道府県・観光地を紹介し、行ってみたい所を書かせている。名所・名物マップを写真やイラスト入りで6ページ分載せている。

Here We（6年L2）：日本の行事や祭りを紹介し、世界の祭りも紹介している。

Blue Sky（6年L2）：日本の行事やイベントを紹介し、世界の行事も紹介している。

・すべての教科書が日本の行事や祭りを扱い、自分なりに考えて紹介や発表をさせている。深い自文化理解への糸口として、HORIZONは、課末でさらに世界に広がる日本文化としてポップカルチャーや和食を紹介している。また、Here Weは、英語になった日本語を紹介し、なぜそのまま使われているのかを考えさせている。

4.2 外国文化への興味

HORIZON（6年L7）：新学期はいつからか、お昼はどうするか、など世界の学校生活を紹介し、子どもを背負って授業する先生も紹介している。

Sunshine（6年L7）：世界の衣食住を紹介し、似ている所と違う所を考えさせている。

TOTAL（5年L3）：インドの小学校の時間割を紹介している。授業時間は30分。ヒンディー語の教科以外は英語で授業し、かけ算は20×20まで。

Crown（5年L5）：世界の小学校の時間割を紹介し、楽しみな教科を聞いている。

Smiles（5年L3）：課末に世界の学校の様子を紹介している。全学年、週1回、日本語や日本文化を学ぶオーストラリアの小学校の様子もある。

Here We（5年L6）：行きたい国やそこで見られるものを紹介させている。

Blue Sky（5年L6）：行きたい国とその理由をたずね合い、書かせている。ナイフやフォーク、はし、右手など、

食事の仕方を紹介している。

・すべての教科書が外国の文化を紹介し、衣食住や学校生活など身近なことから外国に興味を持たせようとしている。多様性を尊重するような書き方も多くの教科書に見られ、HORIZONは子どもを背負って授業する先生を紹介し、Blue Skyは食事の仕方や手話の違いなどを写真やイラストを使って指摘している。

4.3 感受性及び開放性

HORIZON (5年L1)：課末で世界の名前について考えさせ、ミドルネームや父母の名前を入れる文化を紹介し、姓と名の順番の違いを指摘している。

Sunshine (5年L2)：オーストラリアで12月にサンタのおじいさんがサーフィンをしている写真を見せて、日本との違いを考えさせている。①12月にサーフィンをすること。②おじいさんがサーフィンをすること。

TOTAL (5年L2)：課末コラムで、世界の紙幣を扱い、「南アフリカの紙幣にはライオンやアフリカゾウ、台湾の紙幣には勉強をする子どもたち、スーダンの紙幣には民族楽器」が描かれていると紹介している。

TOTAL (6年L2)：コラムで、りんごについて、日本語には、りんご、リンゴ、林檎と、3種類の書き方があるが、英語はappleの1種類しかないとして、その違いを紹介している。

Crown (6年付録)：コラムで「Do you have a pen?と言った人がこまっている様子であれば、Yes, I doと答えて終わりではなく自分のペンを貸してあげよう」「どんな言語でも、ことばをかわすことは気持ちを伝えあうことです」とまとめている。

Smiles (5年L3)：女子児童が発表しているイラストで、級友が「Good idea!」と発言し、「発表を聞くとき、どんな聞き方をするとよいか」と尋ねている。

Here We (5年口絵)：「英語は、世界中のさまざまな国の人々と気持ちや思いを伝えあうための手段です。世界にはさまざまな国があり、文化があり、多様な生き方や考え方をもちた人々がいます。こうしたさまざまな国の多様な人々とやり取りをしながら、いっしょに学んだり、仕事をしたりする機会があることでしょ」と指摘している。

Blue Sky (6年L8)：コラムで、クリケットやカバティ、ラクロス等、比較的日本でなじみのないスポーツを写真とともにくわしく紹介している。

・子どもたちにとって、新しい情報・考え方であるものを紹介し、外国語・外国文化を学ぶことで開放的・積極的になることを期待している。Sunshineのサンタのおじいさんがサーフィンをしている写真は目を惹くものであり、興味を持つであろう。Here Weは、コラムで英語(外国語)を使って異文化理解を進めていく理由や意義を詳しく説明している。

4.4 寛容性及び柔軟性

HORIZON (5年L6)：課末で、食事のマナーを扱い、「中国では、十分なもてなしを受けたことを示すため、わざと少しだけ残す」「インドの一部の地域では、手でカレーを食べるよ。左手は使わない」と紹介している。

TOTAL (5年L7)：課末コラムで、世界の誕生祝いの例としてメキシコのくす玉やロシアの耳たぶひっぱりを紹介し、「思いは世界共通」とまとめている。

Crown (6年付録)：付録の「世界の小学校」というコラムで、中国について「昼休みが長く、2時間あります。すごし方はさまざま」、ケニアについて「給食はいつも同じで、トウモロコシと豆料理を食べます」と紹介している。

Blue Sky (5年L1)：課末コラムで世界のさまざまな行事を扱い、スペインのトマト祭りでは「トマトを投げ合い、しゅうかくを祝います」と写真とともに紹介している。

・この要素は、扱っている教科書が4種類、扱っていない教科書が3種類ある。扱っている教科書は課末コラムや付録で触れている。Horizonの食事マナーやTOTALの耳たぶひっぱり、Blue Skyのトマト投げは、マナー違反と思われるものでも理由や考え方まで触れていて、適切な発想や対応を促している。

4.5 積極的行動態度

HORIZON (6年L1)：各課に自己表現として「わたしのせりふ」がありPicture Bookやヒント等の手立てが多い。

Sunshine (6年L7)：トルコ人にトルコ風のヨーグルトを紹介され、もっと話してと提案する会話がある。

Crown (5年表紙裏)：「世界のあいさつ」と題して、世界の小学生の写真とあいさつを載せている。「世界にはたくさんさんの言葉があります。いろいろなことばであいさつをして、友だちの輪を世界に広げよう」と呼びかけている。

Smiles (5年学習目標)：「相手の気持ちや考えを受け止めながら、すすんで考えを伝え合う」が1年間の学習目標の一つとされている。

Here We (5年表紙裏)：「こんにちは。友達になろうよ」と題して世界の小学生の写真とあいさつを載せている。「世界にはたくさんさんの言葉があります。言葉を使うことを楽しんで、世界中に友達を作りましょう」と呼びかけている。

・異文化交流に対して積極的に行動し、対人関係を築く要素であるが、どの教科書も軽い扱いで、深い例や記述がない。行動・態度という点では、全体的に「あいさつを試みよう」ということが多いが、Smilesは、すすんで考えを伝え合おうと行動を促している。

4.6 英語(外国語)での発信

HORIZON (5年L4)：身近な人の紹介カードを作らせ、その人の名前、絵、職業やできることを書かせ、さらにくわしい情報をペアで会話させている。

Sunshine (6年P2)：感謝の気持ちの伝え方を学ばせ、

異文化コミュニケーション能力育成の観点による
小学校英語科検定教科書分析

伝える手紙を書かせる。お世話になった人々を招待して発表会を開かせ、感謝の気持ちを伝えさせている。

TOTAL (6年L5)：地域にあるものとなないものを伝え合わせる。ある生徒が電話で話をしている設定で、遊園地がない地域に引っ越したつもりで、その生徒に代わって続けて話しをさせている。

Crown (5年6年口絵)：「教室で使う英語」の「友だちや先生とのやりとり」がくわしく、自分からすすんでやると言うとき(“Any volunteers?” “I’ll do it.”)や同じ内容について相手にたずねるときの言い方(“I like ice cream. How about you?”)まで紹介している。

Smiles (6年Read and Act 2)：アーノルド・ローベルの絵本『ふたりはともだち』から、“The Letter”を掲載し、手紙が全く来ないがまくんに、かえるくんが手紙を送る内容で友情を考えさせている。

Here We (5年言葉)：伝わる表現を選ぼうというテーマで、たとえば友だちの誘いを断る場面で、相手がほっとする言い方を考えさせる。断られた理由が分かると、少し安心するかな、とヒントが書かれている。また、「心をつなぐ言葉」を大切にしようというテーマで、具体的な場面において、相手との良い関係をつくる英語を選ばせる。

Here We (6年Warm Up)：気持ちをこめて伝えようというコーナーがあり、たとえば、「昼休みにけんかをした友達と、帰りにばったり会う場面」や「親友の引っ越し当日、見送りに行き、お別れを言う場面」を選んで俳優になったつもりで“See you.”と演じさせている。

Blue Sky (5年story)：ふくだとしお・あきこさんの絵本『うしろにいたのだあれ』の英語版で、「みんな近くにいたんだね」と安心させる。

Blue Sky (6年story)：ロシア民話『大きなかぶ』の英語版で、くり返す言葉の面白さと協力の大切さを考えさせている。

・どの教科書も、英語(外国語)での発信によって、気持ちを伝えさせようとしている。TOTALやHere Weは場面設定をしてどのような言葉をどんな言い方で伝えたいかを考えさせている。SmilesやBlue Skyはよく知られている絵本を利用して、対人関係で大切なものを考えさせている。

4.7 異文化コミュニケーション能力育成の要素からの分析のまとめ

どの教科書も、教育基本法や学習指導要領に基づき、異文化コミュニケーション能力育成を意識した要素が多く含まれている。すべての教科書で日本の行事や文化を深く理解することが扱われており、また英米文化にとどまらず、世界中の外国文化への興味を持たせる内容も多く扱われている。さらに思考力や判断力、表現力を育てていくような要素が、教科書に盛り込まれている。

また、異文化交流を積極的に行い、対人関係を構築する要素についても分析したが、深い内容を含んでいるものは

なく、CrownやHere Weもあいさつをしよう、友だちをつくろうというものだった。

英語(外国語)での発信の要素は、改訂学習指導要領が4技能5領域を習得するものになった点を踏まえ、教科書がワンレッスンでその多くに取り組むものになっており、聞くこと、話すこと(やりとり)、読むこと、書くことから、さらに調べて発表すること、気持ちを伝え合うことまで、さまざまな内容が盛り込まれている。

5. 異文化コミュニケーション阻害要因を取り除くための記述の有無からみた教科書分析

3.2.2で定義した異文化コミュニケーション阻害要因を取り除くための重要な構成要素の有無やその内容から、すべての教科書を分析した。

表3 異文化コミュニケーション阻害要因を取り除くための記述の有無からみた小学校英語教科書の分析

	皆同じという前提	言語の違い	非言語の違い	思い込みやステレオタイプ	評価的な態度・差別	極度の不安
HORIZON	6・L4	5・L1	6・L1	6・L2	6・story	
Sunshine	5・L3	6・付録		5・L6		
TOTAL	6・L4	6・L1	6・L6	5・L10		
Crown	6・付録	5・付録	5・L2	5・付録		6・付録
Smiles			5・Read & Act 1	5・L3	5・Read and Act 2	6・L8
Here We	6・L7	6・L5	5・L4	5・L5	5・L9	6・口絵
Blue Sky	5・L3	6・Pre Unit	5・L2 6・L6	5・L6		

5.1 皆同じという前提を持たないようにさせ、異文化への理解を考えさせる記述があるか

HORIZON (6年L4)：アメリカ、スウェーデン、南半球の夏休みの時期と過ごし方が違うことを写真もつけて記述している。

Sunshine (5年L3)：世界の小学校の教室の様子を写真で比べさせ、個々の机がない国を紹介している。イギリスやフィンランドでは、体の大きさを考慮して、大きなテーブルで座り、子どもたちにゆとりを持たせていることが紹介されている。

TOTAL (6年L4)：夏は何月？というコラムで、オース

トラリアは12～2月が夏、赤道付近のフィジーは年間通じて夏と記述している。

Crown (6年付録)：「世界の小学校」と題して、11か国の学校生活と給食を紹介している。アメリカでは、教科書は学校から借りて使う点を記述している。中国では昼休みの長さを記述している。厳しい環境の中、昼寝等で午後に備えていることが考えられる。

Here We (6年L7)：「友だち」に関する、日本の手話とアメリカの手話の違いを記述し、さらに、世界中で通じる国際手話の「友だち」も紹介している。

Blue Sky (5年L3)：日本の給食は同じものを一緒に教室で食べるが、これは外国ではめずらしいと記述し、米仏は別にカフェテリアで食べると紹介している。

・7つのうち、6つの教科書が自文化の基準のみで考えると判断を間違える例をあげて、他文化への理解を考えさせている。Crownは他文化のあり様やあり方がそうである理由まで記述している。

5.2 言語の違いに関する言及があるか

HORIZON (5年L1)：世界各国の姓名の言い方について、くわしく記述している。名+姓の国、姓+名の国、中間名や父・祖父・曾祖父名を入れる国を紹介し、多様性を教えている。

Sunshine (6年付録)：外来語と英語の違いを比べさせている。

TOTAL (6年L1)：エリザベスさんのニックネームは？というコラムで、エリー、リズ、ベスと呼ばれ、ロバートがボブ、ウィリアムがビル、マーガレットがペギーと呼ばれることがあると記述し、日本語のニックネームとの違いを指摘している。

Crown (5年付録)：「この日本語、どこから来たの？」と題して、いわゆる外来語がどの言語から来たのかを紹介し、ミシンやパソコン、リモコン等、変化して、英語として通じなくなったものを指摘している。

Here We (6年L5)：3枚の写真を使って、食物連鎖に関する英語の文を2つ作らせ、英語の文と日本語の文の違いを指摘している。

Blue Sky (6年Pre Unit)：「私はねこが好きです」を、英語、中国語、韓国語、日本語でどんな語順で並べるかを記述し、英語と中国語、韓国語と日本語が同じ語順であると紹介している。

・HORIZONやTOTAL、Here We、Blue Skyは表現スタイルが言語によって違うことを指摘し、それに気付こうとする習慣を持たばコミュニケーションで大きな失敗をすることは減ることを示唆している。英語と日本語の違いを紹介しているものが多いが、HORIZONとBlue Skyは様々な外国語と日本語の違いまで紹介している。

5.3 非言語メッセージの違いに関する言及があるか

HORIZON (6年L1)：課末に世界のあいさつを写真付き

で紹介している。握手はいろいろな国で使われているあいさつで、タイやミャンマーなどでは手を合わせ、ニュージーランドのマオリ族は相手の鼻と自分の鼻をくっつけて友好を確かめると記述している。

TOTAL (6年L6)：課末コラムで、デンマークでのバリアフリーの工夫や絵文字の表示が紹介され、どんな人も快適な生活が送れるようにという願いが、町を支えていると記述している。

Crown (5年L2)：「世界の標識」という課末コラムで、世界の道路標識の写真を載せ、様々な色や形や文字の標識があることを紹介している。

Smiles (5年Read&Act 1)：防災や避難訓練に関する絵文字を紹介し、意味を考えさせている。

Here We (5年L4)：様々な表情の人や動物の写真を載せ、どんな気持ちかを選ばせている。“happy, angry, sad, sleepy, tired, hungry, thirsty”

Blue Sky (5年L2)：国や地域によって使う記号が違っていると指摘し、「①日本では正解には○、不正解には×か✓を付けることが多く、アメリカでは✓が正解を表します。②日本では「正」の字を書いて数を数えることがありますが、アメリカでは縦4本横1本の線を書いて数えます。」と具体例を挙げている。

Blue Sky (6年L6)：ジェスチャーは文化によって意味がちがうものがあると指摘し、「①ピースサインはイギリスなどでは勝利の意味を持ちますが、ギリシャなどでは相手をばかにするジェスチャーになるので注意が必要。②手招きのジェスチャーは、日本では手のひらを下にするが、アメリカなどでは手のひらを上に向けます。下に向けるとあっちへ行っての意味にとられることがあります。」と具体例を挙げている。

・多くの教科書が非言語メッセージの違いに関する記述をしている。特にBlue Skyは解釈の違いの具体例をくわしく解説しており、意識しておく習慣を持つことを促している。

5.4 思い込みやステレオタイプを取り除くための記述があるか

HORIZON (6年L2)：日本では当たり前にあるが、世界のある国では当たり前でないものを、大切にしているものとして紹介している。「①マラウィでは水。水道や井戸が整備されていない地域では、子供たちが何キロも歩いて水をくみに行く。②学校は宝物。世界にはさまざまな理由で学校に行けない子供たちがいるよ。学校に行けるといことは、とても貴重なことなんだ。」パキスタンのマララ・ユスフザイさんの言葉と経歴も紹介している。“One child, one teacher, one book, and one pen can change the world.”

Sunshine (5年L6)：ジムくんのヒーローとして、障がい乗り越えてプレーする、ブラインドサッカーの川村怜選手を素晴らしいと紹介している。

TOTAL (5年L10)：課末コラムで、貧しい人や親のい

異文化コミュニケーション能力育成の観点による
小学校英語科検定教科書分析

ない子、病気の人に温かい手を差し伸べたマザーテレサの人生を記載し、「豊かそうに見えるこの日本で、心の飢えはないでしょうか」という言葉を紹介している。

Crown (5年付録)：「英語が話されている国々に」と題して、「アメリカは移民が多い国であり、カリフォルニア州では、家庭で英語だけを話しているのは、州の人口の56%しかないという調査結果もある」と記述している。

Smiles (5年L3)：アメリカのスクールバスやシンガポールのカフェテリア、フィンランドの少人数授業、オーストラリアの日本語授業を紹介し、日本の学校とちがうところ、同じところを考えさせている。

Here We (5年L5)：canを扱い、友達ができることやできないこと3つ伝え、それがだれかを当てる試みで、「できることもできないことも、その人の大切な個性だよ」と記述している。

Blue Sky (5年L6)：食事のしかたは国や地域によってさまざまと指摘し、ヨーロッパやアメリカではナイフやフォークで、韓国では茶わんや皿は手に持たず、はしとスプーンで、インドでは左手を使わず、右手を使って食べると紹介している。

・すべての教科書が思い込みやステレオタイプを取り除くための記述をしている。HORIZONやTOTALは著名人の有名な言葉を引用して、心を育てる試みをしている。

5.5 評価的な態度・差別を取り除く記述があるか

HORIZON (6年story)：ドイツで古くから伝わる民話 Butterfly Friends の絵本を扱い、蝶が色で差別する花々の助けを断り、差別しないクローバーの助けを受け入れて、みんなで感謝する物語を紹介している。

Smiles (5年Read and Act 2)：絵本「はしの上のおおかみ」を扱い、橋を通さずに、いじわるばかりしていた狼が、熊に親切にしてもらって、次は自分も生まれ変わって親切になる物語を紹介している。

Here We (5年L9)：課末に英語の歌 Everyone Is Special を扱い、「一人一人はかけがえのない存在で、あなたの代わりはだれもいないよ」というメッセージがこめられた歌です、と紹介している。

・HORIZONやSmilesは絵本を掲載し、差別や偏見の問題を考えさせている。Here Weは歌で「一人一人は大切な存在」とメッセージを紹介している。小学生の発達段階でどのように扱うか、難しいテーマのようで扱えていない教科書も多い。

5.6 極度の不安を取り除くための記述があるか

Crown (6年付録)：「あなた自身が何かを伝えようと思うときにも、相手の反応や、相手の気持ちを想像してみましよう」と、気持ちの大切さを強調している。

Smiles (6年L8)：「友達の夢をどのように応えんするといいかな」と尋ね、Fantastic! Perfect job for you! Great! Nice dream! Good luck! 等の表現を紹介して、発表の不安

を取り除く言い方を教えている。

Here We (6年口絵)：「やってみよう。まちがいをおそれずに。」と題して、次のようなアドバイスをしている。「言葉の学習には、時間がかかります。だれもがまちがいをしながら、言葉の使い方を理解していきます。『まちがいは発見の始まりだ』こんな言葉が、英語にはあります。たくさんのまちがいをしながら、たくさんの発見をしながら、たくさんの喜びを味わいながら、英語を使ってできることを少しずつ増やし、中学校の学びへとつなげていきましょう。」

・英語学習という「初めての異文化接触」に対する心配や不安に対して、正面から切り込んでアドバイスしているのは Here We のみである。他の教科書にも、会話の心構えや話す相手への配慮に触れた記述はある。前向きにどんどん進む教科書も、時々立ち止まって子どもたちに寄り添う必要があるものと考えられる。

5.7 異文化コミュニケーション阻害要因を取り除くための記述の有無からみた分析のまとめ

小学校英語教科書なので、高校や中学校英語教科書ほど、はっきりわかる異文化コミュニケーション阻害要因を取り除くための記述は比較的少ない。しかし、各教科書会社は、小学生の発達段階でも理解可能な具体的な例や絵本・物語を扱って、異文化理解を進め、異文化コミュニケーション能力を育成しようと試みていることがよくわかった。

子どもたちは日本の小学校のあり方と違う世界の小学校があること、言語や非言語メッセージの違いが世界にはあることをこれらの教科書から学ぶことができる。また、思い込みや評価的な姿勢、差別的な意識をもった目で世界の人々を見ないことが英語の授業で身につくはずである。さらにHere Weが記述している異文化や英語（外国語）に対して極度の不安を持たないようにするアドバイスは重要である。子どもたちの不安を軽減し、その心に寄り添う教科書でありたい。

6. 結果の考察

教育基本法や2018年改訂学習指導要領に基づいて作成されたすべての小学校英語検定教科書を、小学生の異文化コミュニケーション能力育成の視点で詳細に分析してきた。

少しだけ小学校英語教育と教科書の歴史を振り返る。2002年に学習指導要領で小学校英語教育が可能になり、2006年に中央教育審議会外国語専門部会が小学校高学年の週1時間程度の英語教育を提案した。2012年に文部科学省編小学校外国語活動教材『Hi, friends!』が発行され、イラストや写真が中心のテキストが使用されるようになった。さらに2018年に中学年（35時間）小学校外国語教材『We Can!』、高学年（70時間）小学校外国語教材が発行され、『We Can!』は現在の小学校英語教科書の原型にな

り、文字やローマ字、単語リストも入った。

分析対象の教科書はこれまでの異文化理解重視の小学校外国語教育の流れを引き継いでおり、先ほど触れた教育基本法や改訂学習指導要領を踏まえて、各教科書会社が多くの大学・高等学校・中学校・小学校教員に依頼して、かなり力を入れて作成している。

今回、これまでの異文化コミュニケーションの学問的成果を踏まえ、異文化コミュニケーション能力育成に資するかどうかの視点で小学校英語科検定教科書を分析したが、全教科書が能力育成を意図した教材・題材を含み、阻害要因を軽減するための内容を含んでいることがわかった。

異文化コミュニケーション育成要素を具体的に振り返る。「①自文化を理解・発信」させ、「②外国文化への興味を持たせる」内容はすべての教科書が含んでいる。どの教科書も英米文化にとどまらず、世界各地の国々の文化が扱われている。「③異文化を積極的に受け入れる感受性・開放性」の要素は多くの教科書にあるが、「④違和感のある異文化への寛容性・柔軟性」の要素は約半数であった。「⑤異文化への積極的行動を育てる」要素も約半数で、あいさつレベルのものが多い。「⑥英語（外国語）での発信」は4技能重視の中で多く扱われており、対人関係の構築に資する優れた内容も多い。

異文化コミュニケーション阻害要因を取り除くための記述を具体的に振り返る。「①「皆同じ」という前提を取り除く」記述は多くの教科書に具体例があり、いくつかは理由まで記述されている。「②言語の違い」及び「③非言語メッセージの違い」への言及についてもほぼすべての教科書に記述があり、かなり詳細な記述も多い。違いがあることを意識するようになることは重要である。「④思い込みやステレオタイプを取り除く」記述はすべての教科書にあり、いくつかはマザー・テレサやマララ・ユスフザイの言葉を紹介して、思い込みに揺さぶりをかけている。「⑤評価的な態度・差別を取り除く」記述は3つの教科書にあり、絵本や歌で子どもたちに考えさせている。「⑥極度の不安を取り除く」ための記述も3つの教科書にあり、異文化接触への不安を軽減させている。

以上の12要素について、教科書によって扱いの多少の差はある。それを教科書占有率と照らし合わせてみると、占有率が高い順に異文化コミュニケーションを意識した題材が多い傾向があり、教科書を採用する各市町村の教育委員会が現場の声をいくらか考慮に入れて、異文化理解・異文化コミュニケーションの要素を重視した可能性が高いと思われる。ある小学校の先生は研修会で、「異文化理解を各課の最初に扱って、子どもたちが理解しやすいように進めている」と話していた。小学校英語（外国語）教育の中で、異文化理解・異文化コミュニケーション能力育成の内容重視が望まれていると考えられる。

問題点として感じたことは、行動・態度面での記述が英語を使った活動を試みようということに留まっていて、具体的にコミュニケーションをどのようにとって、人間関

係を作っていくかについて考えさせているものはきわめて少ないことである。子どもたちの日常に即した部分で、具体的な例を提示するなどして、行動面を育てる要素を取り扱ってもらいたいと感じた。

もう一つの問題点として感じたことは、文化間の表面的な違いの指摘に留まっていることが多く、根底にある共通点の指摘にまで至っていないものが多いということである。石井（2013）によると、イーグルとカーターは1998年にバラバラに浮かんでいるように見える島も実は海中で繋がっているという「島モデル」という考え方を提起している。表面的な多様性を認め合いながら、共通点も考えていきたい。

7. 今後の課題

現場の課題としては、①英語嫌いの子どもを作らないことと、②異文化理解を進め、多様性の大切さをしっかり教えることが挙げられる。各出版社とも学習指導要領に忠実に基づき、力を入れて小学校英語教科書を作成している。年70単位分の学習内容は充実しているが、3年間で学習する単語数が600~700語ぐらいにもなっている。それでも忙しい小学生が消化しきれずに、英語嫌いをたくさん作ってしまう可能性もある。教える側が学習内容を精選し、工夫する必要がある。また、子供たちの異文化理解を深め、多様性を認めることの大切さをできるだけ多く教えていきたい。

教科書の課題としては、寛容性・柔軟性を育てる内容の充実がさらに必要であると感じた。また、生徒たちの実際の生活に寄り添った課題を解決し、積極的な行動を引き出すような外国語（英語）教育が求められている。

研究の課題としては、現状の具体例を集めて、そのいくつかを教科書の例として示し、行動面で取るべき積極性を育てる手立てを考えたい。次の点は、異文化理解を進めて世界の人々と交流しながら、人類共通の課題にチャレンジしていくような基礎を養いたい。気候変動や人口爆発、富の偏在など、人類が抱える課題はたくさんある。SNSが発達し、コミュニケーションの重要性が指摘される今日、外国語（英語）教科書の果たすべき役割は、極めて大きいことを示していきたい。

謝辞

本論文の作成にあたり、2年間に渡って懇切丁寧にご指導ご助言いただき大橋理枝先生に心より深く感謝いたします。また大橋ゼミに集う皆さまにも、厳しいコロナ禍の中、多くの助言と励ましをいただきありがとうございます。ありがとうございました。

文献

- 石井敏 (2013) 「異文化コミュニケーションの基礎概念」. 石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人. 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』第1章 (pp.11-36). 東京. 有斐閣.
- 石黒武人 (2013) 「異文化コミュニケーションの教育・訓練」. 石井敏・久米昭元・長谷川典子・桜木俊行・石黒武人. 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション』第9章 (pp.207-234). 東京. 有斐閣.
- 後藤善久 (1997) 「異文化間コミュニケーション能力育成からみた高校英語教科書分析」. 『札幌大学女子短期大学紀要』. 第1号, p.17-28.
- 文部科学省 (2018) 「小学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説 外国語活動・外国語編」付録4第2章第10節外国語 (pp.155-160). 東京. 文部科学省.
- 文部科学省 (2019) 「小学校教科書目録 (令和3年度使用)」 p.21. 東京. 文部科学省
- 八島智子 (2012) 「グローバル化する世界の異文化接触」. 八島智子・久保田真弓 『異文化コミュニケーション論』第7章 (pp.207-234). 東京. 松柏社.
- 渡辺敦司 (2019) 「20年度小学校教科書採択状況—文科省まとめ」. 『内外教育』. 2019/12/27. 東京. 時事通信社.